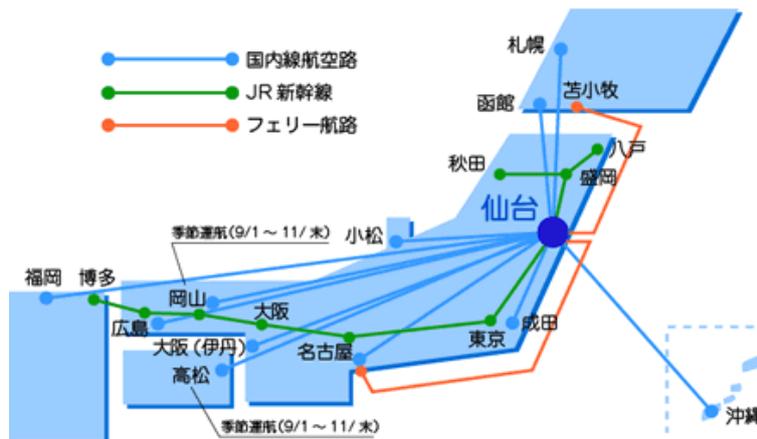


## 事例番号 017 百年の杜のまちづくり(宮城県仙台市)

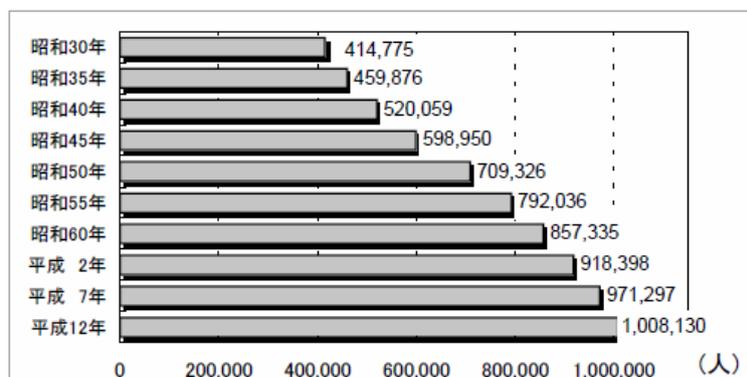
### 1. 背景

仙台市は、広瀬川の流れや青葉山の緑など、豊かな自然環境に恵まれた地である。また、第二次大戦前までは、市街地においても、仙台藩以来約 400 年にわたり受け継がれてきた屋敷林や社寺林などが多く残り、“杜の都”と称されるにふさわしい緑地ストックを形成していた。戦中の空襲などで不幸にも市街地の緑は大半が消失したが、戦後の復興期にいち早く植え直された木々は、50 年以上を経てよみがえり、青葉通や定禅寺通のケヤキ並木などに象徴されるように、今では「杜の都」のシンボルとなっている。

ところが、高度経済成長期の昭和 30 年代から、東北地方の中心都市として様々な都市機能が集中立地することとなった仙台市は都市化が急激に進展し、人口も大幅に増加した。特に昭和 40 年代後半から 50 年代前半にかけての伸びが非常に大きく、10 年間で約 20 万人の人口が増加した(昭和 45 年 59.9 万人、昭和 55 年 79.2 万人)。そのため市街地に残った屋敷林等に宅地開発の波が押し寄せ、また、市街地縁辺部の丘陵地等においても宅地化が進展し、市街地および周辺の緑地面積の急速な減少が懸念されるようになった。丘陵部には民有地が多いが、当時、所有者に対して緑地保全の協力を要請する制度的根拠が存在していなかったため、仙台市独自の制度やシステムの整備を行う必要が生じてきた。



仙台市へのアクセス (資料:(財)仙台観光コンベンション協会ホームページ)



※昭和 60 年以前は編入市町を含めた数値

仙台市の人口推移 (資料:仙台市「仙台21プラン・仙台市基本計画」)

## 2. 目標

仙台市では 50 年、100 年という長期的な視点で杜の都にふさわしい緑のストックを形成していくため、緑の基本計画にあたる『仙台グリーンプラン 21』(平成 9 年)や『百年の杜づくり行動計画』(平成 11 年)を策定し、具体的な数値目標を掲げて環境形成施策を実施している。また、平成 14 年には都市再生プロジェクトに『緑美しい都市の実現』が採用されたが、この計画においても、同様の目標とともに、緑化政策とを併せた総合交通体系の目標を掲げている。

環境保全に関する主な計画と目標 (資料:仙台市)

計画	目標
『仙台グリーンプラン 21』 (平成 22 年に達成する目標を設定)	○都市計画区域の面積に対する緑地の確保目標水準約 30% ○市民1人あたりの都市公園面積 20 m <sup>2</sup> /人 (平成 17 年現在 12.3 m <sup>2</sup> /人で、政令指定都市で第 2 位) ○公共公益施設は敷地面積の 20%を緑化
『百年の杜づくり行動計画』	○JR 仙台駅を中心として半径 2 kmを重点的に緑化する地区と位置づけ、緑のネットワーク(緑の回廊づくり)を実現 ○百万本の杜づくり=1 万本/年を目標として、市民による植樹を推進(新築住宅への苗木の贈呈、生垣の奨励、人生の節目の記念植樹など)
『緑美しい都市の実現』 (都市再生プロジェクト)	○「目線で実感できる緑」の量が重要であると捉え、緑比率ではなく緑視率=31% (一般に緑が豊かだと感じるのは緑視率 25%以上)を実現 ○単に緑の量を増やすのではなく、交通政策などと連携し都市構造の再構築を促し、住み方自体を変えていく。具体的には、地下鉄東西線などの整備を進め、自家用車交通量の減少と道路空間の緑地化を進めることなどで環境負荷の低減を図る。

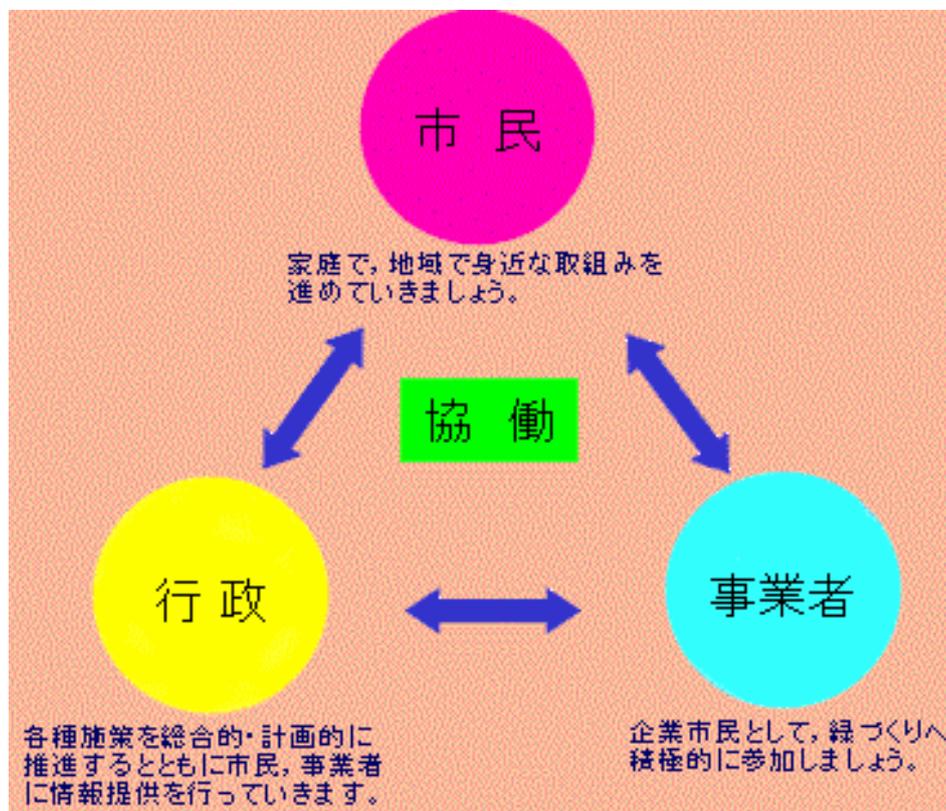
## 3. 取り組みの体制

仙台市「百年の杜づくり行動計画」においては、行政が事業を総合的、計画的に推進し、市民(家庭や地域での取り組み)や事業者(企業市民としての緑化への協力)に情報提供を行っていくことにより、協働の体制により計画実現を図ることが明記している。

取り組みの中心主体は行政(仙台市建設局百年の杜推進部)である。都市緑化施策の推進は仙台市建設局に設置された「百年の杜推進部」が担っており、都市再生プロジェクト「緑美しい都市の実現」に関連する景観条例の運用(都市整備局計画部都市景観課)や交通政策との連携(都市整備局総合交通政策部)に関しては、庁内関連部署と適宜調整を取りながら、緑美しい都市の実現に向けた施策遂行に取り組んでいる。

百年の杜づくり行動計画は市民との協働で推進することとしており、百年の杜推進部が担当し、緑の保全、緑の創出および緑の普及に関し市民公益活動団体の育成や地元自治組織への活動

助成などを行っている。また、事業者に対しても、企業市民という考えから積極的に緑化推進活動への参加を働きかけており、企業による道路除草清掃活動などのボランティア活動、造園建設業協会による定禅寺通や青葉通での定期的なケヤキ街路樹の清浄作業などの協力を仰いでいる。



市民・事業者・行政の協働による取組体制（資料：仙台市『百年の杜づくり行動計画』）



市民・事業者・行政の協働による緑化推進運動（市民による100万本の森づくり）（写真提供：仙台市）

#### 4. 具体策

##### (1) 緑化推進のための具体策

仙台市では、他の都市に先駆けて『杜の都の環境をつくる条例(昭和 48 年)』や『杜の都の風土を育む景観条例(平成7年)』を制定し、環境保全や景観形成の基本的なルールをつくってきた。平成 11 年に策定した『百年の杜づくり行動計画』では、具体的に取り組むべき重点施策を以下のように定めている。

百年の杜づくり行動計画の重点施策 (資料:仙台市『百年の杜づくり行動計』)

重要施策	概要
市街地の「緑の回廊づくり」	仙台の顔となる仙台駅を中心として半径 2km を目安に、道路沿線など目につくところの緑化を推進。
建築物等の緑化助成	民間の建物の屋上や壁面等の緑化を推進するため、「建築物等の緑化助成」事業として、経費の一部を助成する。また、技術情報の提供や公共施設において緑化モデルを設置する。
屋敷林・鎮守の杜の保全	「杜の都・仙台」の原型となった屋敷林や鎮守の杜の原状を調査し、所有者の協力を得ながら、協定を結び守っていく。
わがまち緑の名所 100 選	緑に親しむ機会の増加や、既存の優れた緑を再認識するため、市民に親しまれている緑、あるいは隠れた緑のスポットなど、景観的に優れた緑の名所を公募し、その中から、100 カ所を選出。また、多くの人に親んでもらうため、ガイドブックも制作。
市民による「100 万本の森づくり」	人生の節目の記念や企業の社会貢献の一環としての植樹など、1年で1万本、100年で100万本の植樹が目標。
市民トラストの森	「あの森やこの林を守りたい」という願いを募金活動によって実現させ、みんなで管理し楽しむことのできる森にしていく。
緑の相談所	市民の緑化活動を支援するため、相談や情報提供、講座の開催、相談員の派遣をはじめとして多面的なサポートを行う。
市民緑の交流バンク	緑に関心のある市民が交流を図り、情報を提供しあったり、不用木をやり取りできるような交流の場を設け、支援する。
学校の森づくり	地域のシンボル、小学校や中学校において児童、生徒、教師、保護者や地域住民の参加により植樹をし、学校の森をつくる。
子供の自然体験学習林	小・中学生や親子などが小さいころから自然に親しめるように、市有林や公園を生かして自然体験学習林をつくる。

仙台市は、21 世紀に杜の都の再生をめざす「百年の杜づくり」を推進するため、緑に関する 2 つの基金である「仙台市緑地保全基金」(昭和 60 年設置)と「杜の都緑化基金」(昭和 61 年設置)とを統合し、平成 10 年に「百年の杜づくり推進基金」を設置した。同基金は、市の出捐金をベースに市民・企業からの寄附金を積み立てて約 100 億円(平成 16 年度末)の基金となり、その運用益の活用により以下の事業を実施している。

- ① 生垣づくり助成事業
- ② 花いっぱいまちづくり助成事業
- ③ 緑化木植栽助成事業
- ④ 仙台市公開空地緑化施設整備助成事業
- ⑤ 建築物等緑化助成事業
- ⑥ 花壇づくり助成事業
- ⑦ 記念樹交付事業
- ⑧ 保存樹木等管理費助成事業
- ⑨ 保存緑地等買取事業



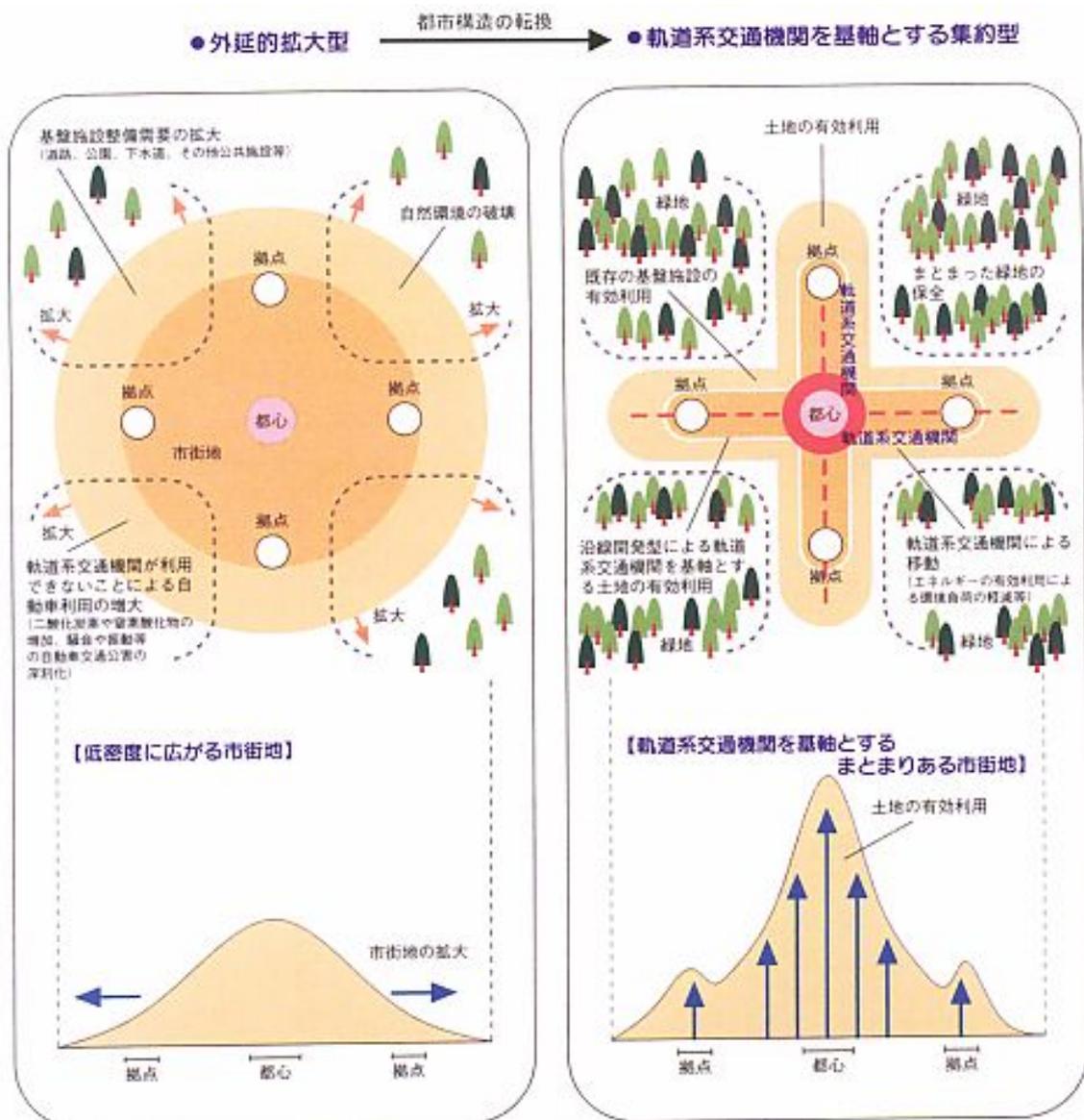
定禅寺通りのケヤキ並木



市街地の緑の回廊整備計画 (資料:仙台市『百年の杜づくり行動計画』)

## (2) 交通政策との連携

仙台市の『緑美しい都市の実現～仙台～(都市再生プロジェクト)』は、緑化政策と並行して、都市部の自動車交通量削減に向けた取り組みを掲げている。具体的には、軌道系交通機関を基軸とした集約型の都市構造に転換するため、公共交通機関を利用して居住地と都心または拠点の間を概ね30分で移動できる“アクセス30分構想”の実現を目指している。そのため、地下鉄東西線の整備を推進するとともに、バス事業者と共同で指定エリア内 100 円バスを運行するなど、都心部の公共交通機関による移動利便性向上施策に取り組んでいる。また、環状道路の整備も進めている。このように、都市構造そのものの転換により都市における交通問題、環境問題を相乗的に解決していくとする施策は、百年の杜推進部と総合交通政策部との密接な連携により推進されており、仙台市における基本的な都市戦略の一つとなっている。



集約型市街地形成への転換 (資料:仙台市「都市計画の方針」)

## 5. 特徴的手法

緑化政策の推進とあわせて、百年の杜にふさわしい都市構造への転換を長期的視点に立って目指す都市戦略を採っている点が特徴的である。そのため、百年の杜づくり関連の施策実施においては、単に緑の量を増やすだけでなく、公共交通の利便性を高める様々なハード・ソフト施策を進めている。

また、緑化の目標を具体的に数値化しているため(例:都市公園面積を平成22年までに20㎡/人にする、100万本の森づくり=1万本/年の市民植樹目標、緑被率から緑視率に転換=緑視率31%以上を目標等)、定期的な目標達成進捗管理が可能となっていることも特徴的である。

## 6. 課題

保存緑地として指定した民間緑地に対しては固定資産税等の減免や保全協力援助金の交付などを行っているが、所有者からは「年々、維持管理が大変になっている」との声があり、それらを将来的にわたって保存していくためには、維持管理に市民ボランティア活動の参加を促すなど新たな取り組みの検討が必要となっている。また、民有地緑化助成事業などを展開する上で、基金の運用環境が大変厳しくなっており、今後の財源確保が課題となっている。

(参考・引用文献)

仙台市ホームページ

『仙台21プラン・仙台市基本計画』

『都市計画の方針』仙台市

『緑美しい都市の実現』仙台市(第4次都市再生プロジェクト資料)